

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社 さくら苑		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2 (電話) 0955-41-2600		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	4人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸クリニック・有田共立病院・イワサキ歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>自然豊かな環境の中、開設して1年の新築のホームで木の香りがし、明るく開放的な雰囲気がある。代表者が「余生をこんな風に暮らしたい」という思いで設立されたホームであり、理念である「ゆっくりとゆったりと・お一人おひとりのあるがままを大切に・心のこもった介護」を実践するため、職員が一丸となり、入居者への安心と信頼の構築を目指している。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価は今回が初めてであり、取り組みや改善はない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての評価で、代表者、管理者、ホーム長が検討しながら記入されているが、評価のねらいや活用方法など他の職員が理解し、サービスの質の確保、向上に活かせるよう、自己評価を全員で取り組む体制が期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は地域住民や行政担当者、利用者、家族代表など幅広い立場の人が参加し、ホームの運営状況や評価についての説明が行われている。今は関係者にホームを理解して頂いている段階であり、会議を活かした今後の取り組みに期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や面会・家族会の時などに積極的に声をかけ、意見を言いやすい関係作りに努めている。利用者の意向により職員の勤務状況を変えるなど、その都度できることから意見を反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等で積極的に挨拶をしたり、ホームの夏祭りやクリスマス会に招待するなど交流に努めている。入居者が地域とつながりを持ちながら暮らしていくために、今後は地域の行事に参加したり、地域で必要とされる活動や役割を担っていくなどの取り組みにも期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりと、ゆったりと・お一人のあるがままを大切に・心のもった介護を目指します」と、代表者や職員の思いをもとにした理念を作りあげている。	<input type="radio"/>	入居者の気持ちを大切にしたい理念を掲げ、その実践に向け取り組まれているが、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの役割を意識した理念の構築に向けた検討も期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビングに掲示し、月1回の会議において理念を唱和、確認すると共に、日々の実践の中で、理念の理解と共有に努めている。		
ひつよ					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや、クリスマス会などホームの行事に参加して頂き、交流に努めている。	<input type="radio"/>	入居者が地域とつながりを持ちながら暮らしていくためにも、地域の行事に共に参加したり、地域で必要とされる活動や役割を担っていく等の更なる取り組みを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の具体的な内容や活用方法など全職員が理解するまでには至っていない。	<input type="radio"/>	評価のねらいや活用方法を全職員が理解し、評価の一連の過程を通じてケアの振り返りや見直しを行い、更なるサービスの質の確保・向上につなげられることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、地域住民や、行政の担当者、利用者、家族の代表等幅広い立場の人が参加し、ホームの運営状況や評価について、話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが設立し間もないこともあり、書類作成時や、課題解決の為に、ホームから出かけ指導を受けるなどして連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に、金銭管理の報告や個々の近況報告や写真を送るなど、利用者の具体的な暮らしぶりを家族等に理解していただき、信頼関係の構築に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに積極的に話しをし、意見を言いやすい関係づくりに努めている。これまでに、利用者の意向により、職員の勤務状況を変えるなど反映できた事例がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はこれまでになく、デイサービスの新設時に、やむを得ず異動があった。スタッフが変わる場合は、管理者、職員が十分に協議し、利用者への影響を一番に考慮している。		
せる					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の会議では、全員が参加できるようにし、勉強会を行っている。又外部の研修会や、資格の取得にも協力し、働きながら学ぶ機会を提供している。日々のケアの実践においても助言等を行い、育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム開設時には、同一町内のグループホームで研修するなどし、交流を深めた。又、グループホームの連絡協議会にも加入し、交流の機会確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅を訪問したり、短時間の利用や、体験入居をしてもらうなど、徐々になじんで頂くようにしている。入居後は早期の安心できる環境や、他の利用者との関係作りを支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の配膳や後片付けを共にしたり、料理方法や漬物の漬け方を教えていただいたりと、職員は共に生活する意識をもって支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は本人の思い、不安、喜びを知ること努め、尊重し意向に添うような暮らし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、それを反映させた介護計画を作成している。計画は意見交換・検討をし作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、終了する前に見直しを行い、又状態の変化に応じた計画を作成している。	○	より充実した介護計画を作成するためにも、具体的なサービス内容に沿った実践記録、及び定期的なモニタリング、評価の一層の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活用し、受診や自宅への送迎など個別の要望に応じ、家族と連携しながら、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関への受診ができ、入居前のかかりつけ医とも連携し、適切な医療が受けられるように配慮している。受診への付き添いは家族へ依頼しているが、無理な場合はホームの職員で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や急変時、又重度化した場合や終末期には、入院など医療機関と連携して支援する体制が整えられているが、重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族・事業所・協力医療機関の方針の共有までには至っていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、できるだけ早期から、また状況の変化に応じ、話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図ることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月の会議やミーティングでは、言葉遣いや態度に関する研修を行ったり、日々の介護の中で関わりに関する指導をするなど尊厳を重視した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方を本人に尋ねたり、一人ひとりの個性を重視し、本人のペースに合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力を活かしながら、買い物、配膳、後片付けなど一緒にしている。また事業所で利用者と共に収穫した果物を献立に加えたり、楽しい雰囲気で作ることが出来るように配慮している。職員も同じ食事を一緒に食べている。	○	開設当時は、ホームで食事の準備をしていたが、デイサービス事業が併設された後は、デイサービス事業所で食事をつくっている。食事の準備から片付けまでの過程を入居者の楽しみや能力を発揮できる重要な機会と捉えれば、食事づくりをホームで入居者とともにできるような場面作りの工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望を聞き、時間帯も柔軟に対応している。出来るだけゆっくと入れるような配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、趣味や持てる力に応じた役割ができるように支援している。地元の陶器関係で絵付けの仕事がされていた入居者が多く、絵画などの作品をホームに飾るなど、自信や誇りにつながる支援ながされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に、散歩、花摘みを日常的に行い、広いバルコニーを利用して、食事会やレクリエーションを計画するなど、屋内だけで過ごさず、戸外の空気に触れる機会を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ず鍵を使用することもあるが、鍵をかけることの弊害を理解しており、できるだけ施錠せず、入居者が戸外へ出られるときには一緒に同行するなど対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管内の消防署に指導を受け、定期的に消火訓練、避難訓練、通報訓練など実施している。又近隣の方にも協力が得られるよう、事前に電話連絡でお願いし協力してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食事を提供し、入居者の状態に合わせて軟菜、お粥、刻み食や、嚥下状態により、水分にトロミをつけたものを準備している。食事や水分の摂取量の記録もされ、職員が把握しやすく定期的なチェックも出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは窓が大きく、見渡せば木や花など季節の移ろいを感じられ心地良い空間である。音や職員の声も静かで、採光にも配慮されている。床や壁には木材を使用し、家具も落ち着いて家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベット、椅子等が持ち込まれ、家族の写真やぬいぐるみ、手製の小物などを家族の面会時に持参される等、安心できる環境づくりが窺える。		